

## 第16回川づくり見学会・交流会開催報告

### (1)開催概要

#### 開催目的

新河岸川流域川づくり連絡会では、行政と市民とが一体となった総合治水対策の進捗や水循環の改善を目指しております。

今回見学会・交流会を行った不老川は、入間市、所沢市、狭山市、川越市を流れる新河岸川の支川の1つですが、急速な都市化によって氾濫がこりやすく、過去には床上浸水も起きていることから緊急的な浸水対策を行っており、また平常時の水質や水量の改善を図るための計画も策定しております。

この見学会では連絡会メンバー及び新河岸川流域住民の方々に、不老川で行われている河川整備や健全な水環境の構築に向けての活動などを知っていただくことにより、新河岸川流域で更に総合治水対策の進捗や水循環の改善が進むことを目的として開催されました。

#### 開催日

平成21年8月9日（日）13:30～17:15

#### 見学対象

不老川沿川の河川改修ポイント

〔とすとらず公園、草刈橋上流、武蔵野橋上下流、砂久保橋〕

#### 見学会テーマ

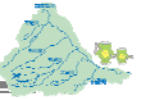
「不老川における川づくりについて考える」



草刈橋上流



武蔵野橋上流



## (2) 当日の行程

第16回川づくり見学会・交流会は、以下の行程で開催しました。

場所	滞在時間	時間	移動手段	行動と内容	説明者	
狭山市入曽公民館 駐車場	5分	13:15	—	—	受付・集合	—
		13:20	発	バス	出発・挨拶	—
①とすとらず公園	20分	13:38	着	18分	見学・説明	・川越県土整備事務所
		13:58	発	バス		
②草刈橋	20分	14:05	着	7分	見学・説明	・川越県土整備事務所
		14:25	発	バス		
③武蔵野橋上下流	40分	14:40	着	15分	見学・説明	・川越県土整備事務所
		15:20	発	バス		
④砂久保橋	10分	15:30	着	10分	見学・説明	・川越県土整備事務所
		15:40	発	バス		
【交流会会場】 川越県土整備事務所	70分	15:50	着	10分	見学・説明	—
		16:00	発	—	交流会	・荒川下流河川事務所
		17:00		バス		・川越県土整備事務所
西武新宿線 南大塚駅 東武東上線 川越駅	—	17:15	着	15分	解散	—

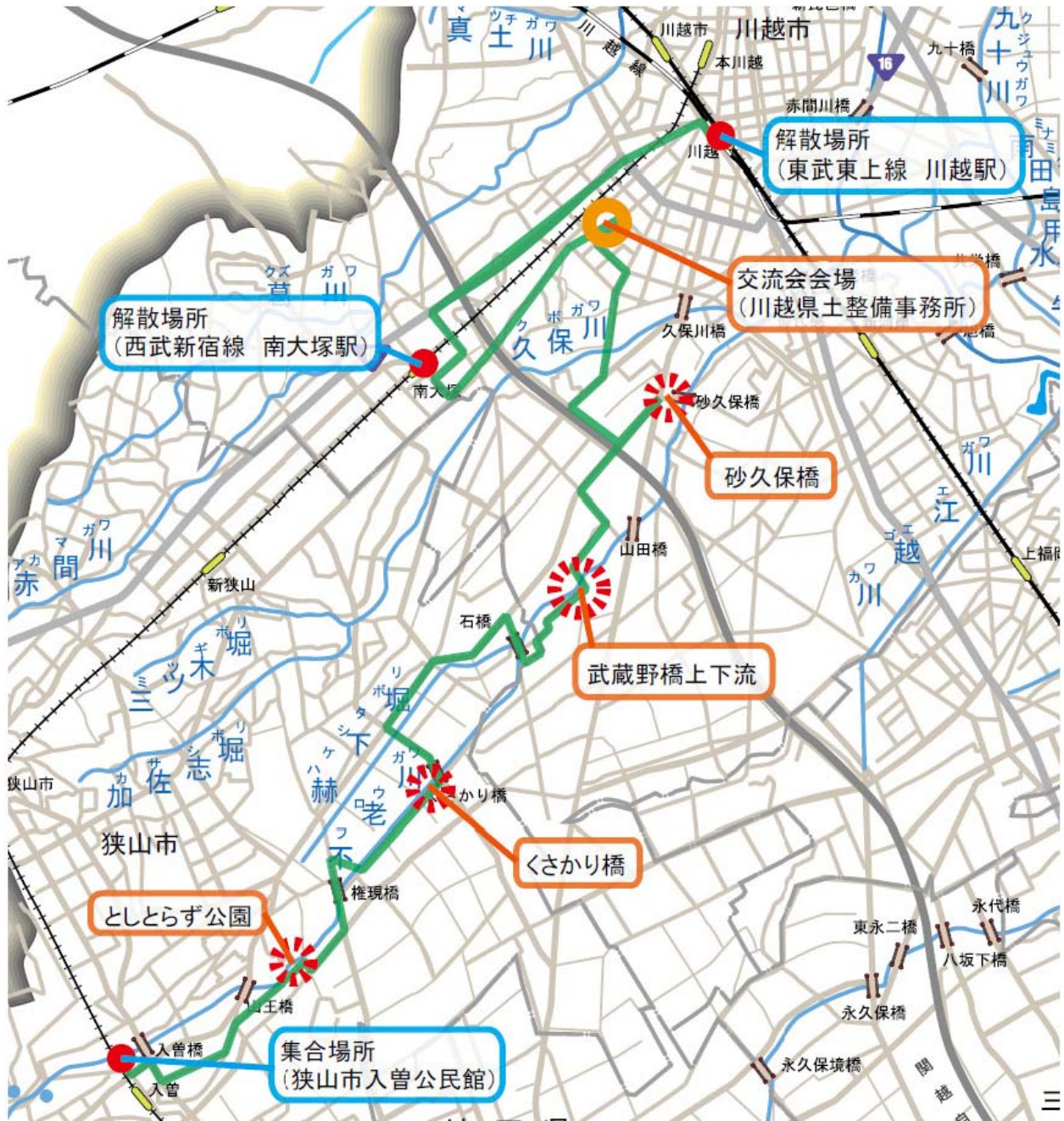
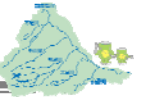


図 ルートマップ



### (3)参加者

新河岸川流域の川づくり団体関係者：18名

- ・ 所沢源流の会：1名
- ・ 空堀川を考える会：2名
- ・ 不老川流域川づくり市民の会：6名
- ・ NPO 法人エコシティ志木：3名
- ・ 黒目川流域川づくり懇談会：2名
- ・ 柳瀬川流域ネットワーク：2名
- ・ 新河岸川水系水環境連絡会：1名
- ・ 和光自然環境を守る会：1名

埼玉県川越県土整備事務所：3名

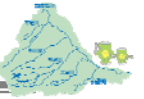
国土交通省荒川下流河川事務所：2名

コンサルタント：5名

合計 28 名

#### アンケートに見る参加者属性

- ・ 参加者のほとんどが連絡会メンバーでした。
- ・ 日ごろから川づくりなど、環境に関わる市民団体活動に参加されている方でした。
- ・ 埼玉県は富士見市、志木市、狭山市、川越市、所沢市、東京都は東久留米市、東大和市、西東京市からの参加がありました。



## (4)見学会の様子

### 受付・出発

集合場所の狭山市の入曽公民館駐車場へ参加者とスタッフなど約30名が集まり、受付を済ませてから移動用のバスに乗り込み、見学会が開始されました。

最初の目的地に向かう車中では、荒川下流河川事務所からの挨拶がありました。また、不老川流域川づくり市民の会が管理作業をしている林について、不老川流域川づくり市民の会の相馬さんから説明がありました。

### ①とすとらず公園

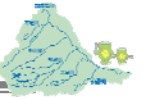
とすとらず公園では、河川に近づくことができるように設置された階段護岸の上で、川越県土整備事務所から説明がありました。埼玉県が実施している「水辺再生100プラン」の概要や、今年度事業としてとすとらず公園周辺の親水空間を活用する計画づくり、また近隣の学校の環境学習の場としても役立てていることなどの説明がありました。埼玉県が住民と一緒に河川等の再生を図るために進めている「水辺再生100プラン」では、昨年度26箇所、今年度37箇所の事業が選定され、不老川も平成21年度に選定されたモデル箇所の1つです。説明の後に参加者は、階段を下りて水辺を観察したり、説明者に個別の質問をしたりして、思いおもいに見学をしていました。



### ②草刈橋

草刈橋に向かう車中では、不老川流域川づくり市民の会の相馬さんから、整備中の不老川について説明がありました。見学地の草刈橋では、上流部1.6kmについて進められている「床上浸水対策特別緊急事業」の概要や、行政、住民、専門家による「不老川かわづくり検討会」を立ち上げて、「多自然川づくり」という考え方で整備が進められていることなどが川越県土整備事務所から説明されました。この整備事業では、植生や「瀬」「淵」の形成など河川景観に配慮した川づくりが進められており、平成19・20年度で約800mが完成しています。





### ③武蔵野橋

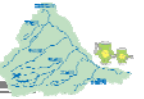
武蔵野橋の約500m上流でバスを降り、川越県土整備事務所とこの近辺の官地林の管理に携わっている不老川流域川づくり市民の会の高木さんからの説明がありました。「床上浸水対策特別緊急事業」の川越工区では、河床の掘り下げ、川幅の拡幅、環境ブロックの設置などの整備がされました。また「多自然型川づくり」の考え方のもと、植生が期待できる護岸ブロック、水際部で魚等の生物の住処となる魚巣ブロック、川の流れを蛇行させる自然石（床止め工）の設置等の整備がされています。整備のために取得された河岸の林も自然の状態を保ちながら景観を向上させる方針です。この後、武蔵野橋の下流側までの約500mを、見学者全員で河川を見学しながら歩きました。



### ④砂久保橋

砂久保橋では、河川改修の際に伐採されたエノキについて、川越県土整備事務所から説明がありました。当初は、エノキを切らずに残す予定で、河川の法線が右に振られています。調整が難しく現在のよう形になったということです。





## (5) 交流会の様子

川越県土整備事務所2階大会議室において、交流会が開催されました。参加者全員の自己紹介、荒川下流河川事務所・川越県土整備事務所による話題提供に続いて、参加者による活発な意見交換が行われました。



### 【話題提供】

#### 《総合治水対策について》 荒川下流河川事務所

今年の3月に水循環に関する行動指針となる柳瀬川水循環アクションプランが策定された。総合治水対策につながることで合わせて進めていきたい。

不老川は普段水が少ないため、下水流入による水質悪化も問題であったが、清流ルネッサンスの取り組みや下水道整備により水質は改善している。

その一方で、市街化が進み、川に流れ込む雨水の量が昭和30年代に約1割だったのが現在は約4割まで増えていることから、大雨が降ると河川の水量が急増するという問題がある。治水対策として昭和57年に新河岸川流域整備計画が策定されたが、その後大きな災害を受けたため、平成17年に数字等を見直し計画を改定した。

床上浸水被害を防ぐなどの治水対策は早急に必要だが、環境とのバランスが必要であるため、住民の意見を受けて進める必要がある。増水のピークが重なると災害に繋がる危険度が高いため、ピークをずらすための対策（浸透・貯留など）が必要である。総合治水対策は行政だけでは進まないため、住民に意識を持ってもらう取り組みが必要である。

#### 《不老川改修工事の概要》 川越県土整備事務所

不老川は過去に浸水被害が多発していたため、平成8年度より、総合治水対策事業として新河岸川との合流点から上流に向かって整備が進められている。しかしその間にも被害は発生しており、総合治水対策事業のみでは時間がかかることから、「床上浸水対策特別緊急事業」として断面の狭隘な部分の改修を平成17年度より5箇年という短期間で進めている。

「床上浸水対策特別緊急事業」の川越工区は整備が終わり、狭山工区は平成19年度から現在までに草刈橋付近から上流概ね800m区間の整備が完了している。今後は残る上流部の改修を予定している。改修後の状況を見ると、護岸への植生や濡筋の蛇行部分ができているところもあり、ある一定の改善が図られていると思う。残りの事業期間は短いですが、できるかぎりの整備を進めていきたい。

これからの整備については「多自然型川づくり」からもう一歩環境に配慮した「多自然川づくり」の考え方で改修を進めていく。その際、計画と実施が乖離しないためにも、検討会等で住民の意見を取り入れて事業計画を練っていきたい。

今後も不老川では河道改修と水質改善という2つの面で事業を進めていく方針である。また、植生復活、瀬と淵の形成などは、今後も引き続き時間をかけて進める必要があり、状況を観察していく必要もあると思う。環境に配慮しながら流域の治水安全度を高めていきたい。



【意見交換】

《「多自然型川づくり」と「多自然川づくり」の流速の違いについて》

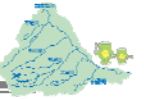
- 「多自然川づくり」による蛇行や、川幅の変化によって流速が若干変化することは考えられる。「多自然型川づくり」は治水・利水だけではなく環境にも配慮した川づくりとして提案された。「多自然川づくり」は「多自然型川づくり」からさらに一歩進めた川づくりを進めるべきであるという概念で提案されたもので、設計時の流速について基準が存在するものではない。
- 「多自然型川づくり」では川づくりの型を想定して、すべての河川をその型はめようとしたために不都合が出てきた。それを修正してそれぞれの河川の地域特性を生かすような川づくりを考えるために「型」を取ったのが「多自然川づくり」になったと聞いている。不老川では以前来た時より、流れの幅が変わったり、水量・水質などずっと良くなってきている。地域特性を生かした川づくりの事例として広めてもらえればと思う。
- 全国の中小河川では、補修などを少しずつ長年に渡って行っているのが現状であり、不老川のように地域でやりたいと思っている整備を一気にできる河川は少なく貴重な事例である。
- 不老川は、「多自然川づくり」について多くの最新情報が入ってきているため恵まれている。不老川に入ってきた最新情報や状況を発信していい川づくりが広がれば良いと思う。

《今後「多自然川づくり」でどのように取り組んで行きたいか》

- 草刈橋の所で、瀬と淵ができていた。低水路でもコンクリートで固めた方が良いところとそうでないところもあったし、川の特性を見て工夫をして行けば、イメージした川づくりに近づいて行くと思う。
- 治水に重点を置く人がいる一方で、環境まで含めて考えている人もいる。「多自然川づくり」を進めるにあたって、意見のすり合わせをしていく必要がある。
- 「多自然川づくり」を考えている人たちは、治水が根本にあることはわかっているので、治水を重点的に求める人たちと対立する考えではない。時間をかけて話し合いをすることで良い方向へ向かうと思う。

《河川と農業用水の担当部署について》

- 埼玉県「水辺再生 100 プラン」では、想定している 100 箇所のうち、河川については県土整備部が担当し、農業用水については農林部が担当している。



#### 《治水の安全性について》

- 全区間を整備しなければ当初の目的の達成とはいえませんが、整備の済んだ下流部については、流下能力の面から見て治水問題は改善されていると思われる。

#### 《魚の溯上状況について》

- 川越工区の落差工を無くしたことによって、魚が川を遡上できるようになった。6月には武蔵野橋の上流でアユが多く見られたが、今日はほとんど見られなかった。
- 大雨による増水で下流に移動したのではないか。
- 河床に草など魚の隠れる場所がないためではないか。
- 魚の棲みかとして河床の石が適度に掘られるのが良いが、現状は掘られすぎているのではないか。
- 下流の工事が終了して間もないが、河床がだいぶ下がっているところがある。

#### 《不老川の未整備箇所について》

- 「床上浸水対策特別緊急事業」は5箇年という制約があるので、延長したとしても1年程度であるが、その後は総合治水対策事業として継続して整備を進めていきたいと考えている。

#### 《河川用地について》

- 河川用地は有効活用して欲しい。
- 用地があるのであれば川幅は広くとるのがよいのではないか。

#### 《市民参加の場について》

- 「多自然川づくり」を考える場として、川づくりに精通している人を集めて、勉強をしながら進めようというものである。
- 「不老川かわづくり検討会」は、学識経験者、国、自治体、市民団体に構成されている。

#### 《河川利用について》

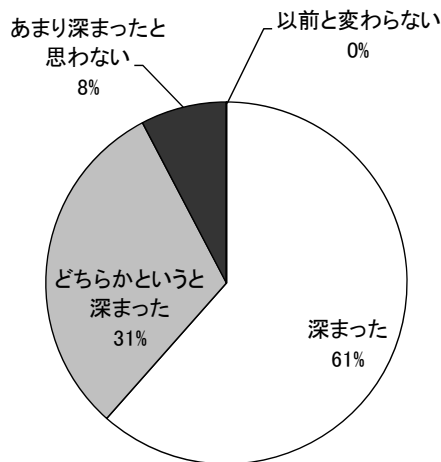
- 川沿いを人があまり歩いていない印象があった。見られる川、近寄ってみたい川にする工夫も必要ではないか。



## (6)アンケート調査結果

問1 今回は見学会・交流会を不老川を対象に行いましたが、参加したことによって新河岸川流域における総合治水対策への知識や理解が深まりましたか？（番号1つに○）（n=13）

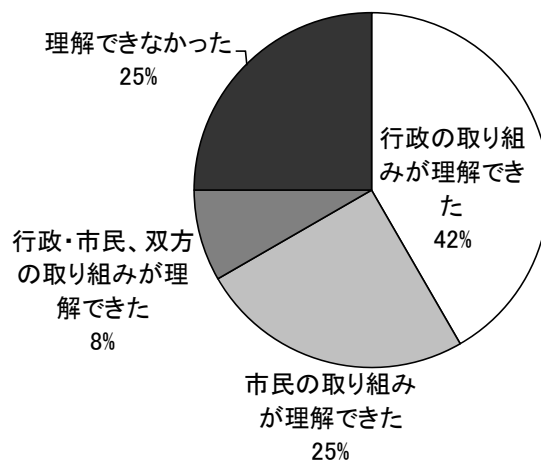
ほとんどの方が、「深まった」・「どちらかという深まった」と感じていましたが、「あまり深まった」と思わないと感じている方が一部いることから、さらに総合治水対策への知識や理解を深めるための活動について検討が必要であると考えられます。

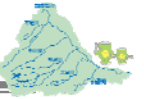


問2 見学会・交流会に参加して、不老川の総合治水対策に対する行政や市民の取り組みに関してどのように感じましたか？（番号1つに○）（n=12）

半数近くの方が行政の取り組みへの理解を、7割以上の方が行政・市民のどちらか又は双方の取り組みを理解できたと感じていました。

今後は、より双方の取り組みへ理解を促進させるため、活動内容を検討することが必要であると考えられます。

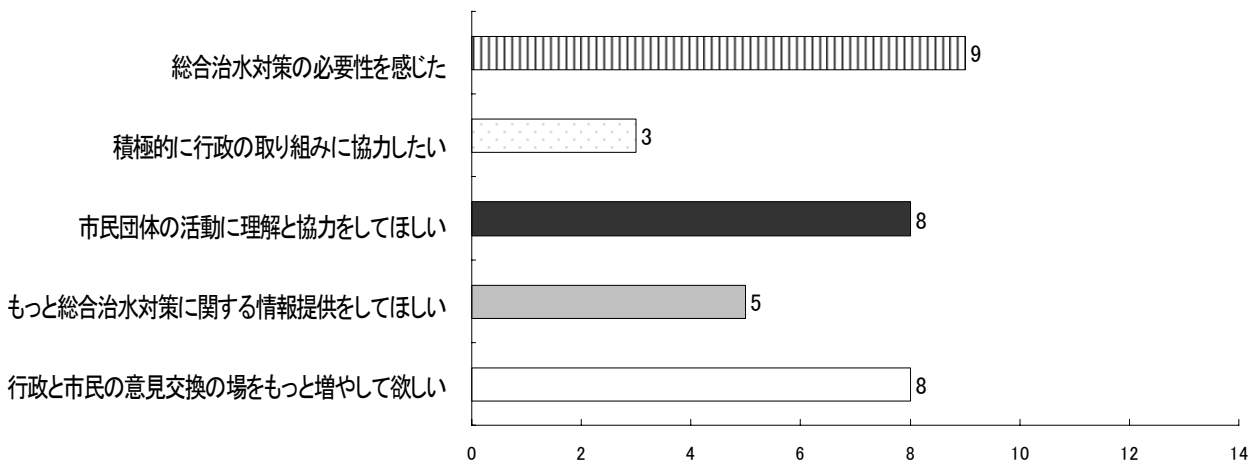




**問3 見学会・交流会に参加して、行政が行っている総合治水対策に対してどのような感想や要望をお持ちになりましたか？（あてはまる番号すべてに○）（n=14）**

「総合治水対策の必要性を感じた」、「市民団体の活動に理解と協力をしてほしい」、「行政と市民の意見交換の場をもっと増やしてほしい」という意見が多く、「積極的に行政の取り組みに協力したい」は少ない結果となりました。

今後は、行政と市民の連携を強化するための場を積極的に設けることで、行政への取り組みに対しても理解を向上させることが必要であると考えられます。

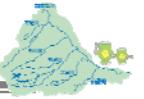


**問4 今後、総合治水対策を広げていくためには、行政と市民がどのようなことに取り組んでいけばいいと思いますか？ ご自由にお書き下さい。**

行政と市民、市民同市の話し合いの機会を増やすという意見が多く寄せられました。また、行政の担当者との世代への期待の声もありました。

**【主な意見】**

- 計画の早い段階から市民に参加させて、意見を出させること
- 話し合いの回数を可能な限り多くし、相互の話し合いの頻度が高まれば川はもっとよくなる。
- 市民と県土で話合いができれば時間年月をかけても環境のことも考えていただきたい。
- 川越県土整備事務所部長の想いをもっと拡げて、若い世代へのつなぎに期待する
- 川づくり団体だけでなく一般市民に対する見学会等の開催
- 雨水貯留浸透・多自然川づくり
- 川に親しみやすい遊歩道的管理道路をめざして
- 河畔に樹木の植栽をして散策者がいこえる川にしたらどうでしょう。
- 武蔵野橋のエノキ2本もできるだけ残していただきたい。
- まだ治水対策が主体の工事が多い
- 立場の違いによる温度差があると感じる。



問5「新河岸川流域川づくり連絡会」では、今回行った見学会・交流会の他に、月1回程度の連絡会、年に1回のフォーラムや発表会などを行っていますが、参加したいと思いませんか？（番号1つに○）（n=2）  
※連絡会メンバー以外の参加者のみ回答

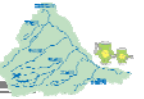
連絡会メンバー以外の参加者全員から、連絡会が主催する活動に参加したいという回答がありました。今後、連絡会への参加も促すことが必要であると考えられます。

問6 今後、見学会でとりあげてほしいテーマや見学したい場所等がありましたら、ご自由にお書き下さい。

今後の見学会のテーマについて、以下のようなご意見がありました。

【主な意見】

- 治水を前提に、如何に自然豊かな状態にするか、参考になる所の紹介
- 志木・宗岡地区の治水歴史
- 新河岸川流域の源流めぐり
- 川沿いの夫婦樹木（河川の法線がかかっている）を残すための手法の検討



問7 その他、本日の見学会・交流会や総合治水対策等について、  
ご意見・ご感想をご自由にお書き下さい。

15年前の不老川と比べて水質がだいぶ改善されたという意見と共に、河川用地の利用状況や親水性の問題など、今後の改修に繋がる意見も多く寄せられました。

【主な意見】

- 川沿いに県有林や旧河道の河川用地などがあり、全然余裕のない中で改修計画を作り、整備に携わった者として羨ましく思いました。  
→この余地を利用しないで直線・標準断面で整備された不老川を見て、とてももったいないことをしてしまったと残念に思いました。
- まっすぐでない川にすれば、下流への負荷も小さくなるはずです。
- 15年以上前だったか、新河岸川の合流点から入曽付近まで歩きました。水の汚れが最もひどかったところで、落差工では泡が山のように盛り上がり、風で泡が飛んでいるどぶ川だったのを思い出しました。
- 雨量が50mmをはるかに越える場合が多発していますので、その備えもお願いしたい。
- 総合治水：浸水想定区域図（平成18年）と昭和時代に作成したものと大きく変動しているこのことを広く教える。
- とても勉強になりました。
- 川の岸边（土手）の土の浄化によって雨水に栄養分をあたえた水が流れると魚が多く住むようになるのではないかと
- 不老川流域での雨水貯留浸透施設の設置の状況、今後の普及方法は？
- 不老川の改修状況を見ましたが、あまり親水性を感じませんでした。コンサルの図面（計画）を叩き台として、市民、行政で更に練り直すプロセスを今後取っていくべき
- 河川計画法線にかかる残すべき樹木は保全できるよう計画を練り直す必要があります。